



サマーキャンプスケッチコンクール 2014年優秀作品
★グランプリ
「キャンプファイヤー」林田 悠杜さん



糖尿病サマーキャンプの歴史

我が国の糖尿病サマーキャンプは、1型糖尿病と診断された子ども達の教育と生活指導のために、1963年に丸山博先生によってはじめられ、50年を超える歴史を重ねています。現在では全国50か所で開催され、毎年約1200人の子ども達が参加し、約4500人の医師や、看護師、栄養士などの医療スタッフ、学生ボランティア、キャンプOB/OGらによって運営されています。全国各地のキャンプには、それぞれの歴史や地域の特徴があり、ひと夏の間、いろいろな地域で開催されます。



糖尿病サマーキャンプの内容

各キャンプは、安全であること、教育的であること、楽しいこと、チャレンジできること、地域や社会との交流の場であること、という目的があり、さまざまな計画で実施されています。また、キャンプはご家族の皆さんにとっても、学びの場でもあり、休息の時でもあります。

- 開会式
- コミュニケーションゲーム
- 食事・バーベキューなど
- 山登り、海水浴、キャンプファイヤー、花火
- 自己注射、血糖測定、学習会
- 仲間との交流の時間など・・・

糖尿病サマーキャンプの効果

日本糖尿病協会では小児糖尿病キャンプの必要性と効果を明らかにする目的で、2008年から3年間をかけて全国の糖尿病キャンプを対象に調査を行いました。全国24か所のキャンプから10～18歳の1型糖尿病を持つ患者915人の協力が得られ、キャンプの参加経験による相違点などにも注目してキャンプ参加前から1年後までの調査を行い、キャンプに参加することの意義と成果を確認しました。その調査結果の一部を紹介します。

「キャンプが必要な理由」は、キャンプに参加したことのある206名が回答(複数回答)した結果です。「キャンプ後に使用している知識・技術」は、キャンプに参加した経験のある173名が回答(複数回答)した、キャンプ3か月後の結果です。

(文献)

- 1) 社団法人日本糖尿病協会調査研究報告書;小児糖尿病生活講習会(サマーキャンプ)の成果に関する調査報告書, 2010年11月
- 2) 薬師神裕子,中村慶子,榎崎見史,岡田泰助,武田倬;小児糖尿病キャンプの必要性と成果に関する全国調査,糖尿病,55(11), 2012, 866-872



キャンプが必要な理由

n=1193 (206人複数回答)

項目	回答数	%
同じ病気を持った仲間と交流できる	174	84.5
新しい友人と出会える	142	68.9
仲間や医療者から生活上のアドバイスが得られる	102	49.5
注射や血糖測定の手技が学習できる	83	40.3
食事や補食について学べる	80	38.8
食事を見直す事ができる	73	35.4
コントロールの目標を立てる事ができる	71	34.5
低血糖や高血糖の対応方法が学べる	70	34.0
病気に立ち向かう自信が持てる	67	32.5
同じ仲間から刺激がもらえる	67	32.5
インスリンの調整方法が学べる	62	30.1
おもいっきり運動ができる	54	26.2
血糖値を予測する方法を学べる	47	22.8
悩みを打ち明ける事ができる	46	22.3
インスリン注射に対するやる気が出る	41	19.9
その他	14	6.8
累計	1193	

キャンプ後に使用している知識・技術

n=598 (173人複数回答)

